

赤十字

NEWS in 德島

ニュース

赤十字の人道活動は皆様方の
日本赤十字社活動支援費(日赤社費)で行われています
ご協力をお願いします

第36号
平成28年12月
発行

発行所 日本赤十字社徳島県支部
〒770-0044 徳島市庄町三丁目12番地1
TEL 088-631-6000
FAX 088-631-6100
URL <https://www.tokushima.jrc.or.jp>



明治32年当時の支部社屋（徳島市徳島本町）

「人道博愛」の百三十年を迎えます

明治20年10月28日、日本赤十字社徳島県支部は日本赤十字社徳島県委員部として、全国で最初に設立された6支部の1つとして発足しました。

当初は、事務所を県庁（旧蜂須賀藩家老賀島氏屋敷）内に置いていましたが、日清戦争を機に業務が増加したため、明治32年、徳島市徳島本町に事務所・倉庫・看護婦養成所等からなる支部社屋を新築（写真上）。

翌年の北清事変や日露戦争（明治37年～38年）等の際には、救護班を派遣するなど、「敵、味方区別なく傷ついた人々を救う」という赤十字の使命のもと、戦時救護に尽力。

大正12年9月に起きた関東大震災の際には、多数の救護員を被災地へ派遣するとともに救援物資を送付するなど、懸命の救護活動を展開しました。昭和20年7月3日に空襲のため社屋が焼失しましたが、翌日には市内の民家にて業務を再開。その後、終戦を迎えてからも、阪神淡路大震災や東日本大震災における救護活動をはじめ、救急法等の普及活動や赤十字ボランティアの育成、青少年赤十字活動の推進など、各種人道活動を通して、赤十字の人道博愛の精神は脈々と受け継がれ、平成29年には、支部創立130周年を迎えます。

この節目を記念して、「人道博愛の心」をテーマとした美術展の開催をはじめ、徳島赤十字病院の増築や各市町村への災害用資機材の配備等の記念事業を実施し、これまで受け継がれてきた赤十字の人道精神を未来へつなげる飛躍の一年にしていきたいと考えています。



当支部1階玄関に明治時代の看護衣など歴史的な資料を展示しています
(徳島市庄町三丁目)

支部創立130周年記念ロゴマーク



今に生きる「人道博愛の心」展 ～美術に見る日本赤十字社の歩み～

期 間：平成29年4月22日(土)～6月11日(日)

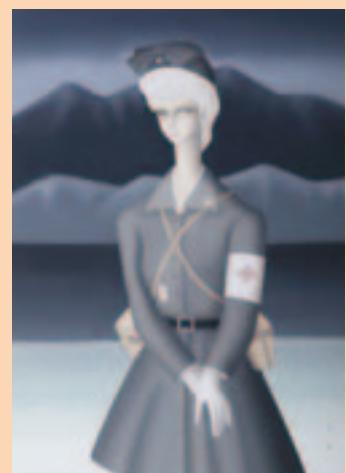
会 場：徳島県立近代美術館（徳島県文化の森総合公園内）

主 催 今に生きる「人道博愛の心」展実行委員会
(日本赤十字社徳島県支部・徳島新聞社・徳島県教育委員会)

観覧料 大人 当日 1,000円 前売及び団体 800円
高校・大学生 当日 600円 前売及び団体 500円
中学生以下 無料

障がい者は本人に限り無料（障がい者手帳をご提示ください。）

※団体料金は20名以上の場合。



東郷青児 ナース像
日本赤十字社蔵 ©あしなが育英会

中国・四国各県から救護班が集結 ～南海トラフ巨大地震に備えて救護訓練を実施～

11月12日・13日の2日間、徳島市川内町旭野運動公園において「日本赤十字社中国・四国各県支部合同災害救護訓練」を約600人の参加のもと実施しました。

この訓練は、南海トラフ巨大地震の発生に備え、中国・四国の赤十字各県支部はもとより各防災関係機関との連携を強化し、迅速かつ適切な救護活動の確立などが目的。

四国沖を震源とするマグニチュード8・6の地震が発生し、揺れや津波により多数の傷病者が出ていたという想定のもと、出動指示を受けた各県の赤十字救護班やボランティアが本県に集結しました。

緊急車両のサイレン音が鳴り響き、緊迫した雰囲気の中、特殊メイクを施した傷病者を消防や警察が次々と救出。引継を受けた救護班はトリアージと呼ばれる治療の優先順位付けを行った後、症状に応じて処置し、重症度の高い傷病者は徳島赤十字病院を想定したテントへと搬送しました。

また、避難所で不安を抱える被災者に寄り添うこころのケア活動や、赤十字防災ボランティアによる避難所支援など、実際の災害ながらの訓練となりました。今回の訓練で明らかになつた成果や課題を検証し、南海トラフ巨大地震に対する対応力の更なる強化を図ります。



救助に集結した緊急車両やヘリコプター



重傷者の手当てにあたる救護員



救護所から災害拠点病院への搬送



修了式で整列する救護要員

傷病者役として参加した

徳島県立総合看護学校

都奈々子さん（写真左）

将来、救急やDMATとして活躍する看護師を目指しています。今回の訓練では、患者から情報を正確に聞き取ることが難しそうだと感じました。普段は簡単なことでも、災害現場ではどうなるかわからないので、日頃から基本大事にしているたいです。



参加者の声

救護医師として訓練に参加した

徳島赤十字病院 研修医

阿部 夏季（写真右）

これから医師として働いていく上で南海トラフの地震は避けは通れませんので、今後も災害救護訓練には積極的に参加していきたいと思います。

医師として参加しました。災害時には、治療に必要な機材が限られ、通常の診療とは違う難しさを感じました。



搬送された傷病者を手当てる徳島赤十字病院のスタッフ

シリーズ 德島赤十字病院 第11回 救急部

徳島赤十字病院の診療科やトピックスを紹介するシリーズ「徳島赤十字病院」。今回は、救急部のチーム医療の紹介です。

少しずつ、ER（救急外来）のシステム、運用が変わりつつあります。これまででも各科医師と協力し、重症患者の診療を行っていましたが、昨年、医師1名が救急部へ加わったことにより、ERにおける重症外傷患者への対応では、外傷初療、処置のレベルが上がったことはもちろん、看護師、検査部、臨床工学技士の協力もあり、緊急輸血等も行えるようになりました。

また、病院前救急医療に対応するため、消防機関からの医師派遣要請に応えられるドクターカーの運用も開始。昨年4月から本年9月までに420件の出動があり、内約8割が消防からの直接要請でした。そのため、本年6月からは2台目のドクターカーとしてラピッドレスポンスカーを導入。運用時間は平日のみですが、今年6月からは19時まで出動できるようになり、病院、消防からの救急要請に、より迅速に応えられるようになりました。

今年度、医師2名が加わったことにより、さらに活気づいた救急部は、今後もチーム一丸となつて診療にあたります。



救急医療チーム 福田救急部長（右から5番目）

熊本の復興に向けて

4月に発生した震度7の地震で、大きな被害を受けた熊本県。当支部では、本震発生直後の16日から徳島日赤DMATや医療救護班を被災地に派遣し、救護活動を展開しました。

また、皆さまから寄せられる義援金についても平成29年3月31日まで募集期間を延長し、被災者を支援しています。寄せられた義援金は、一切の手数料をいただくことなく全額が被災地に順次届けられています。



徳島県立鳴門渦潮高等学校様 義援金贈呈式（10月24日）



勝浦町赤十字奉仕団様 義援金贈呈式（6月3日）

平成28年 熊本地震災害義援金
398,844 件 26,969,353,282 円
(日本赤十字社受付分 10月21日現在)
1,120 件 66,234,159 円
(日赤徳島県支部受付分 11月21日現在)

救急部長 福田 靖



人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社 スローガン

豪快パフォーマンスで 献血を呼びかけ

徳島県の大学生で組織するボランティアが、若者に献血への興味を持ってもらう新しい取り組みとして、9月24日、徳島駅前の特設ステージで書道パフォーマンスを行いました。

袴姿の大学生3人が大きな筆を持ち、縦3メートル横4メートルの紙に「夏は献血へGO！君に救える命がきっとある」など、豪快な筆さばきを披露し観客を魅了。

パフォーマンスを終えた学生が「多くの人の命を救うために多くの協力が必要です。もっと同年代の人にも関心を持ってもらいたい」と訴えると、大きな拍手が沸き起こりました。

通りがけに見ていた高校生は「迫力に驚いた。献血に興味が湧いた。今度学校に献血バスが来たら協力したい」と話していました。



献血を力強く支える
学生ボランティア



豪快な筆さばきで
作品を書き上げる
様子

応援七全力投球 けんけつちゃん



8月27日、徳島インディゴソックスの試合がJAバンク徳島スタジアムで行われ、観客に献血への協力を呼び掛けました。

けんけつちゃんは会場入口で職員と一緒に献血推進うちわを配布したり、ジェット風船を観客と一緒に飛ばしてスタンドを盛り上げるなど、会場を走り回っていました。

観客は「献血を知るきっかけになった。一度行ってみようかな」と興味を持ったようでした。



スタンドを盛り上げる
けんけつちゃん

来て、見て、触って、 体験して！ 親子セミ

夏休みに小学生の親子が血液の不思議を学び体験するゼミナールを血液センターで開講しました。

顕微鏡で赤血球や白血球を見た児童は「こんな玉が体の中で仕事をしているなんて不思議」との声。また人工腕に採血針を刺す体験では「重く（抵抗が）なくなったから（血管に）針が入ったことが分かった。緊張した」と恐るおそる取り組んでいました。

参加した児童は「いろいろ体験できて楽しかった。献血の大切さがわかった」と話していました。



成分 献血は

前日までにご予約を！

0120-688-950



400mL 献血に

男性

3回/年

女性

2回/年

のご協力を！

年1回から
“あともう1回を”

親子で献血しませんか？

「子ども連れだと献血に行きづらい」と考える方も多いのではないでしょうか。

そこで献血ルーム アミコは、お子様と一緒に献血できるキャンペーン第2弾を行います！

採血ベッドの横にお子様用の椅子を用意。献血中の生の声をお子様に伝えて、将来の献血者を育てませんか？

平成29年1月末まで実施中です！！



ホームページ公開中！

徳島県赤十字血液センター

検索



Facebookはじめました。
最新情報つぎつぎ更新中！



<日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します>

・日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-6000
・徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町新開4-1 TEL:0885-32-0903
・徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね 同上

・徳島赤十字乳児院 小松島市中田町新開2-2 TEL:0885-32-0555
・徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ロ103 TEL:0885-32-2555
・徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-3200